

学校法人 コミュニケーションアート 大阪スクールオブミュージック専門学校 学校関係者評価委員会 集約版

【平成29年7月3日実施】

平成28年度自己点検自己評価(平成28年4月1日～平成29年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価		点検・評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1	3			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	学校関係者評価委員よりの御意見
1 教育理念・目的・育人人材像	1-1 理念・目的・育人人材像は定められているか	3	3	<p>学校法人コミュニケーションアート 大阪スクールオブミュージック専門学校は、学校法人滋慶学園グループ(※1)に属し、「職業人教育を通じて社会に貢献していく」ことをミッション(使命)としている。</p> <p>「3つの建学の理念」「実学教育」(※2)「人間教育」(※3)「国際教育」(※4)を実践し、「4つの信頼」(①業界の信頼 ②高校の先生の信頼③学生と保護者の信頼 ④地域の信頼)を得られるように学校運営をしている。建学の理念に基づき、大阪スクールオブミュージック専門学校は、『音楽・エンターテインメントを通して、人に喜びや感動を与えられる「即戦力」』となる音楽・エンターテインメント業界の人材育成を目的として学校運営をしている。現在、音楽・エンターテインメント業界を取り巻く社会の環境は大きく変化している。職業の現場で求められる知識・技術の高度化や、より付加価値の高い人材の必要性を背景に、本校では、『産学連携教育システム』により、様々な変化にも対応できる人材の育成を実現してきた。</p>	<p>(※1)「学校法人滋慶学園グループ」 昭和51年の創立以来、「職業教育を通じて社会に貢献する」ことをミッションに掲げ、全国に専門学校・教育機関を設置し、業界で即戦力となる人材育成のため、建学時から変わらない「3つの理念」(実学教育、人間教育、国際教育)と「4つの信頼」(業界からの信頼、高校の先生からの信頼、学生・保護者からの信頼、地域からの信頼)を実践することで、理想の教育実現を目指す。 医療・福祉・美容・調理・製菓・バイオ・スポーツ・クリエイティブ・エコ・音楽・ダンス等、多岐にわたる分野で北海道から福岡まで70校を有する。 (※2)「実学教育」 スペシャリストが求められる時代に即し、業界に直結した専門学校として、即戦力となる知識技術を教授する。一人一人の個性を活かし、それぞれの業界で力が発揮できるように構築された『滋慶学園グループ独自の教育システム』。 (※3)「人間教育」 開校以来、『今日も笑顔で挨拶を』を標語に掲げ、他人への思いやりの気持ちやコミュニケーション能力、リーダーシップがとれる対人スキル等を身につけ、同時にプロ・社会人としての身構え、心構え・気構えを養成する。 (※4)「国際教育」 コミュニケーション言語としての英語を身につけるだけでなく、日本人としてのアイデンティティを確立した上で、広い視野でモノを捉える国際的感性を養う</p>	3	<p>建学時の理念等をしっかり継承して現場で反映されることを望みます。</p>
	1-2 学校の特色は何か						
	1-3 学校の将来構想を抱いているか						
2 学校運営	2-4 運営方針は定められているか	3	3	<p>滋慶学園グループは毎年、長期・中期・短期展望をし、事業計画を作成している。それを受けて、滋慶COMグループに属する各学校が作成する短期事業計画を作成する。事業計画は、法人常務理事会、法人理事会の決議を受け、承認を得ることになっている。事業計画においては、グループ全体の方針や方向性、組織、各部署における目標や取り組み、職務分掌、各種会議及び研修等々についてが明確に示されている。運営組織は、事業計画の核をなす組織目的、運営方針、実行方針と実行計画に基づいたものである。単年度の運営も、中期計画の視点にたって行われる。事業計画書の組織図には学校に関わる人材が明記され、誰もが全員の組織上の位置づけを理解できるようになっている。学校がもっとも大切にしていることとして、滋慶学園グループの中期・短期の事業計画に沿って、採用と人材育成行い、様々な研修において目標達成に向け、スタッフのスキル面とマインド面の向上を図り、また関わるすべての人が学校の方向性、学校の方針の実現に向けて同じ方向を向くために、各種研修や会議、ミーティングにより、コミュニケーションの重要性を確認している。また滋慶学園グループ共通システムである専門学校基幹業務システム(ASシステム)により管理・運営している。学生情報や総務管理、財務情報などの管理を行っている。</p>	<p>各学校における事業計画書は、広報・教務・就職と、学校におけるすべての部署について考えられ、また、すべての部署が同じ方針・考え方を理解し、徹底している。</p> <p>学校全体の運営、あるいは各部署の運営が正しく行われるために、様々な研修や会議が設けられ、この研修、会議を通じて、個人個人の目標設定及び業務への落とし込みを行い、また常に方向性、位置づけ等を確認できるシステムを構築している</p> <p>学校の目標達成のため、その目標を前提として、個々の教職員一人一人が自分の目標を明確化し、それを日々の業務に落とし込んでいるが、各自が自分の業務を遂行することで、学校の目標達成に貢献している。その学校の目標や達成方法等を決定、周知徹底するのが会議であり、その内容により、それぞれの会議が行われる。</p> <p>学生の教育・就職・学費入金等、学生に関わる情報処理についてはすべて一元化された運営を行っており、そのため学生情報にブレがないシステム構築となっている。また、システムの効率化だけではなく、必要な場合、関連部署・企業との連携により、二重チェックできる体制もできている。</p>	3	<p>研修・会議等を効率的に行うことを望みます。</p>
	2-5 事業計画は定められているか						
	2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか						
	2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか						
	2-8 意思決定システムは確立されているか						
	2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか						

<p style="text-align: center;">3 教育活動</p>	<p>3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか</p> <p>3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか</p> <p>3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか</p> <p>3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか</p> <p>3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか</p> <p>3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか</p> <p>3-16 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</p> <p>3-16-17 教員の専門性を向上させる研修を行っているか</p> <p>3-17 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか</p> <p>3-18 資格取得の指導体制はあるか</p>	3	<p>職業教育は常に業界と密接な関連を持つことで、教育目標・育成人材像を正しく方向づけられると考えており、業界の人材動向を常にキャッチし、その変化に対応して養成目的や教育目標の見直しを毎年実施している。本校は教育システムとして、独自の「産学連携教育システム」を構築しており、このシステムにより、業界と乖離することなく、業界で即戦力となりうる人材を育成、輩出できている。</p> <p>教育目標達成のためのカリキュラムは、入学前から卒業まで、体系的に編成されているが、常に教育部会等で研究、見直し等を行っている。カリキュラムは学科(専攻)に関わるもののみならず、社会的・職業的自立を目指し、「キャリア教育」の視点に立ったものになっている。</p> <p>授業改善、教職員・講師の資質向上等を目的とし、授業評価を実施しているが、これを通して講師や学生の状況を正確に把握し、総合的な判断ができる要因となっている。</p> <p>成績評価・単位認定の基準を明確にし、学生指導を行っているが、明確な基準と共に、柔軟な対応ができる余地を残すことで、すべての学生が学科の目標を達成した上で、進級・卒業できる体制を作っている。</p> <p>資格取得については、業務を行う上で必要な資格、就職に有利な資格という範囲で取得に向け、支援を行っている。</p>	<p>1987年の開校以来、教職員の目標として、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門就職率 100% (就職者/専門分野就職者) 2. 退学率 0% (入学者は全員卒業へ)を掲げ、その達成のために2つの重要なシステムを構築している。 <p>第1のシステムは入学前の自己発見→自己変革→自己確立という、自己3段階教育と、動機づけ・目的意識づけプログラムである。入学前からの一貫した育成システムと目的意識をもって取り組むプログラムの組み合わせにより、モチベーション向上を果たしている。</p> <p>第2のシステムは、即戦力としての実践的技術・知識、ビジネスマインド等を身につけるための教育システム「産学連携教育システム」である。これには、次の6つが挙げられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 企業プロジェクト ②Wメジャー・カリキュラム ③ 業界研修 ④ 海外実学研修 ⑤ 特別ゼミ ⑥ 就職キャリアセンター・デビューセンターである。 <p>教育システムの開発のため、全国の姉妹校とともに教育部会を設置。カリキュラムの検討、全国企業プロジェクトなどを行う。</p> <p>教育課程の編成や改訂について、教育課程編成委員会にて外部の意見を取り入れ実行している。</p> <p>講師研修会はJESC主催、また学校主催での会を行い、理念や学生一人ひとりをみる視点を共有し、講師を通じて学生の満足を得るために実施している。</p>	3	<p>平成29年度でも重点目標と計画達成への挑戦が続けられている。今期についても挑戦する姿勢は評価できます。</p>
<p style="text-align: center;">4 教育成果</p>	<p>4-19 就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか</p> <p>4-20 資格取得率の向上が図られているか</p> <p>4-21 退学率の低減が図られているか</p> <p>4-22 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</p>	3	<p>教育成果は目標達成の努力の結果であるが、本校では、専門就職率(就職者/専門分野就職者)100%、退学者0名を教育成果の最終目標に学校運営を行っている。</p> <p>就職では近年、就職率(就職者/就職希望者)は高い水準を保っているが、専門就職率、就職対象率の向上も課題として取り組んでいる。</p> <p>退学率では、開校以来、様々な取り組みの努力を重ねた結果、成果は出て来ている。今後も学生個々の徹底したフォロー、カリキュラムの工夫、担任・副担任制度の強化、学生カウンセリングの強化等々を実施し、退学率0%達成に向け、努力を惜しむことはない。</p>	<p>教育成果の1つである就職は、年々、専門就職率が向上しているが、100%を達成すべく、努力を続けている。</p> <p>各種就職イベント、就職保護者会、就職対策講座等でモチベーションを上げたり、しっかり指導をしている成果が出ていると考えられる。</p> <p>年2回(7月、11月)に保護者面談会を実施。学生が目標を達成できるように、保護者と三位一体となり、支援する体制作りを行っている。</p> <p>退学率では、進路変更委員の個別カウンセリングを強化し、目的意識喪失の学生に向けた目標の再設定のために力をそそぐ。</p> <p>JESCのサポートアンケート評価に基づき、学生一人ひとりへの支援を充実するとともに学科ミーティングにての情報共有を行い、担任からチームへの支援体制を広げ幅広い学生の想いに応えられる学校になる。</p>	3	<p>学生への個別対応も取り組みが実施されており良いと思います。</p>

5 学生支援	5-23 就職に関する体制は整備されているか	3	<p>本校では、学生が目標を達成できるように、物心両面の環境を整備していくことで支援に繋がると考える。</p> <p>学生支援には、①就職・デビュー ②学費 ③学生生活 ④健康 などの分野で行っている。</p> <p>①就職・デビューについて 専門部署であるキャリアセンター・デビューセンターを設置し、担任との強い連携をとりながら、就職・デビューの相談、斡旋、面接他各種指導などの支援をしている。</p> <p>②学費について 相談窓口として事務局会計課を置き、提供できる学費面でのサービスをアドバイスするファイナンシャルアドバイザーにより支援している。また奨学金利用者に関しては各種ガイダンスを行い、マネー教育にも力を入れている。</p> <p>③学生生活について 担任及び副担任制により学生一人ひとりのサポートを行う。それ以外にもSSC(スチューデント・サービス・センター)という悩みや相談を受ける専門部署を置き、支援している。</p> <p>④健康について 滋慶学園グループのクリニックである慶生会クリニック大阪が担当し、在学中の健康管理を支援している。健康診断や二次検診に関しても積極的に学生に呼びかけ、健康管理を推進している。また、学生の課外活動であるサークル・同好会について、学校が年間予算を計上し、担当者を配置して支援し、学生満足度アップに貢献している。学生寮も学園専用の寮を整備しており、寮長と担任が連携して学生を支援している。</p>	<p>滋慶学園COMグループでは、顧客満足を第一に考え、様々な支援体制を整備している。</p> <p>その中でも、「就職・デビュー」は学生が目標を達成し、業界で活躍するための最重要事項である。本校では非常に力を入れており、キャリアセンター・デビューセンターという専門部署を置き、専任のスタッフを配置している。キャリアセンターは、業界現場での実践研修である「業界研修」の指導から、個別相談、就職対策講座、就職支援イベント開催、就職斡旋等々、就職に関するあらゆる支援を行っている。</p> <p>デビューセンターは、本校独自の企業オーディションや企業プレゼンテーションなどの支援を行っている。</p> <p>また、求人情報等を学生が自宅のパソコン及び携帯電話からでも閲覧できる就職支援システム「サクセスナビ」「eboard」「一斉メール」などのシステム構築をもし、迅速な対応ができるように支援している。</p> <p>「就職・デビュー」と並ぶ重要項目である「教育」については、教育環境を整備し、成果を上げている。</p> <p>即戦力の人材を育成するための施設・設備、機材等々を完備し、また業界ニーズとぶれないカリキュラムの構築、業界第一線で活躍する講師陣による授業など、オンリーワンを目指す学校として十二分な体制を確立している。</p> <p>奨学金返還に関して、専任スタッフを2名置き、卒業後までしっかりとサポートを行う体制を作り、安心して学業に取り組むことができる環境にしている。</p> <p>年2回(7月、11月)に保護者面談会を実施。学生が目標を達成できるように、保護者と三位一体となり支援する体制作りを行っている。</p>	3	卒業生への支援に力を入れているのは良いこと。保護者によっても安心できる内容である。
	5-24 学生相談に関する体制は整備されているか					
	5-25 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか					
	5-26 学生の健康管理を担う組織体制はあるか					
	5-27 課外活動に対する支援体制は整備されているか					
	5-28 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか					
	5-29 保護者と適切に連携しているか					
5-30 卒業生への支援体制はあるか						
6 教育環境	6-31 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3	<p>本校は、業界で即戦力となり得る人材育成を目的としており、そのための教育環境(施設・設備、機材等)の整備は重要であるが、完備されていると考える。</p> <p>学内の教育環境に留まらず、学外環境の外部ホールイェスシアター、シンフォニーホールなどを利用し、学外施設にて学生の授業に役立てている。業界研修、学外演習、海外実学研修も十二分に整備することが必要であるが、キャリアセンター、デビューセンター、教務部、国際部が一丸となってその整備を行い、教育効果につなげている。</p> <p>防災訓練・避難訓練も計画的に実施しており、安全対策を日頃から啓蒙している。</p>	<p>教育環境である施設・設備・機材等は非常に重要な要素であり、業界水準の最良のものを整備している。</p> <p>毎年、事業計画で計画し、予算計上の上、計画通りに購入・更新等を行っているが、これ以外の学外教育環境も教務部、キャリアセンター、デビューセンター、国際部が一丸となって整備しており、これは本校の大きな強みと考えている。</p> <p>在学中のインターンシップにより業界の仕事を体験するのみではなく、人間関係を十分に体感し社会に出る準備をできる環境を構築している。</p> <p>アメリカのパークレー音楽大学との連携により、海外留学の案内を学生にも広め、グローバルに活躍できる人材を育成する体制を整備している。</p>	3	最新・最良の設備・機材等を整備することは、即戦力につながると思われる。「最適の設備」が重要である。
	6-32 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか					
	6-33 防災に対する体制は整備されているか					

7 学生の募集と受け入れ	7-34 学生募集活動は、適正に行われているか	3	本校は、大阪府専修学校各種学校連合会に加盟し、同会の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容(AO入試等)を遵守している。また過大な広告を一切廃し、必要な場合は根拠数字を記載するなど、適切な学生募集ができるように配慮している。さらに、広告倫理委員会を設置し、広報活動の適切さをチェックしている。広報・告知に関しては、各種媒体、入学案内、説明会への参加やホームページを活用して、学校告知を実施し、教育内容等を正しく知ってもらうように努めている。これらすべての広報活動等において収集した個人情報・出願・新入生の個人情報等本校に関わるものの個人情報は、校内に個人情報委員会を設置し、厳重に管理し、流出及び他目的に使用しないように管理の徹底を図っている。入学選考に関しては、出願受付及び選考日を学生募集要項に明示し、決められた日程に実施しているが、入学選考後は、「入学選考会議」により可否を決定する。なお、本校における入学選考は、学生募集要項にも明示している通り「面接選考」及び「書類選考」であるが、その基準となるのは「目的意識」である。将来目指す業界への職業意識や具体的な目標がしっかりしているかを確認すると共に、その目標が本校より提供する教育プログラム及びカリキュラムにおいて実現可能かを確認するもので、入学試験という名称のもとと学科試験を行うものではない。学納金や預かり金、教材等の見直しを毎年行っており、学費及び諸経費の無駄な支出をチェックしている。保護者への授業料及び諸経費の提示についても、入学前の段階において、年間必要額を学生募集要項に明記し、基本的に期中での追加徴収を行わない。	学生募集については、募集開始時期、募集内容等々ルールを遵守し、また、過大な広告を一切排除し、厳正な学生募集に配慮している。広報活動では「学校の特色を理解してもらう」ことを強化している。本校は専門就職を果たしてもらうことを第一目標としているため、入学前に職業イメージがどれだけ明確になっているかが大切と考え、体験入学や説明会への複数回参加を促し、充分理解し疑問を解消した上で出願してもらうことを心がけている。教育成果として、高い専門就職実績と卒業生の活躍の打ち出しを強化しており、学生募集上の効果はかなり高いと考えるが、それゆえ、過大な広告にならないよう学内に広告倫理委員会を設置し、事務局長、広報スタッフ等が常にチェックしている。	3	学費納入に関する分納・延納制度は有りがたい制度であり今後も充実されることを期待する。
	7-35 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか		本校は、一般社団法人日本プライバシー認証機構「TRUSTe」の国際規定の認証を受けている。			
	7-36 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか		学費の納入に関しては分納・延納制度を設け、一人ひとりに対応できる体制を作っている。			
	7-37 学納金は妥当なものとなっているか					
8 財務	8-38 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3	財務は、学校運営に関して重要な要素の1つである。その中で予算(収支計画)は学校運営に不可欠なものであって、その予算を正確かつ実現可能なものとして作成する必要がある。毎年、次年度事業計画を作成し、その事業計画の中に5ヶ年の収支予算を立てているが、次年度の収支予算はもちろんのこと、中長期的に予算を立てることによって、学校の財務基盤を安定させるための計画を事前に組んでおくのが目的である。	予算を正確かつ実現可能なものにするための2つの要素がある。 ①正確かつ実現可能な予算の作成 予算は短期的、中長期的の2種類がある。短期的は次期1年間のもの、中長期的は2～5年間のものである。当学校法人及び学校では、短期的と中長期的の両方を事業計画書として作成し、短期的視野と中長期的視野の2つの観点から予算編成している。短期的な予算編成は当年度の実績を基礎に次年度に予定している業務計画を加味して行われる。中長期的な予算編成は主として大規模な計画を視野に入れた上で、業界の情勢を読み取りながら行われる。正確かつ実現可能な予算作成のためには、一旦作成した予算が現実のものとならぬ場合はそれを修正する必要がある。そのため短期的な予算においては期中に「修正予算」を組み、中長期的な予算においては毎年編成しなおすことにしている。これにより、短期的にも中長期的にも正確かつ実現可能な予算編成を組むことができる。	3	学校・学園など複数の目でチェックされていることで携わる全ての方々が常に問題意識をもあたらせ従事されていると感じる
	8-39 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか		②①のための体制作り ①のように実現可能な予算作成をするためには、その体制作りが必要になる。事業計画・予算は学校責任者が協議して作成し、滋慶学園本部がチェックし、修正して最終的に理事会・評議員会が承認する体制を整えている。さらに、予算に基づいて学校運営がなされているかどうかは四半期ごとに予算実績対比を出し、学校責任者と学園本部が協議し予算と実績が乖離しているようであれば修正予算を編成し、理事会・評議員会の承認を得る。作成した決算書、事業報告書については、情報公開の対象となり、利害関係者の閲覧に供することとなる。			
	8-40 財務について会計監査が適正に行われているか		会計監査は、法人及び学校の利害関係者に対して、法人等の正確かつ信頼できる情報を提供するために、第三者による監査人が、法人とは独立し計算書類が適切かどうかを監査することを意味する。平成17年4月から私立学校法が改正され、学校法人の財務情報公開が義務づけられたが、これに迅速に取り組み、「財務情報公開規程」及び情報公開マニュアルを作成し現在に至っているが、財務情報公開の体制は整った。			
	8-41 財務情報公開の体制整備はできているか		平成25年度よりホームページにて公開している。外部関係では寄附行為の変更認可及び行政への届け出、そして内部関係では財務情報公開規定及び情報公開マニュアルを作成し、財務公開体制を整備した。	職業実践専門課程申請に伴い、平成25年度よりHPで公開しているが、更なる周知徹底が必要である。		

9 法令等の遵守	9-42 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3	<p>法令を遵守するという考えは、滋慶学園グループ全体の方針として掲げ、各校の教職員全員でその方針を理解し、実行に努めている。 法人理事会のもとに、コンプライアンス委員会で学校運営が適切かどうかを判断している。 現状では、学校運営(学科運営)が適切かどうかはつぎの各調査等においてチェックできるようにしている。 ①学校法人調査 ②自己点検・自己評価 ③学校基礎調査④専修学校各種学校調査 等である。 また、組織体制強化やシステム構築にも努め、次のようなものがある。 (A)組織体制 ①財務情報公開体制(学校法人) ②個人情報管理体制(滋慶学園グループ) ③広告倫理委員会(滋慶学園グループ) ④進路変更委員会(滋慶学園グループ) (B)システム(管理システム) ①個人情報管理システム(滋慶学園グループ) ②建物安全管理システム(滋慶学園グループ) ③防災管理システム(滋慶学園グループ) ④部品購入棚卸システム(滋慶学園グループ) ⑤コンピュータ管理システム(COM グループ)</p> <p>滋慶学園グループ、COM グループと全体というスケールメリットを活かし、各委員会、体制、システムにより、各校が常に健在な学校(学科)運営ができるようにしている。 法令や設置基準の遵守に対する方針は明文化し、法令や設置基準の遵守に対応する体制作りは完全に整備できている。</p>	<p>3つの教育「実学教育」、「人間教育」、「国際教育」で「職業教育を通じて社会に貢献する」という建学の理念の実現を目指し、4つの信頼(「業界の信頼」、「高校の先生の信頼」、「学生・保護者の信頼」、「地域の信頼」)を確保するためにも、コンプライアンス推進をはかる。 具体的には、すべての法令を遵守するとともに社会規範を尊重し、高い倫理観に基づき、社会人としての良識に従い行動することが私たちの重要な社会的使命と認識し、実践する。</p> <p>方針実行のため、学内にコンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンスを確実に実践・推進に当たらせることにした。 委員長は、統括責任者としての学校の役員が就任する。委員は学校の現場責任者である事務局長と実務責任者の教務部長で構成される。 主な任務は、行動規範・コンプライアンス規程の作成、コンプライアンスに関する教育・研修の実施、コンプライアンス抵触事案への対応及び再発の対策の検討・実施、コンプライアンスの周知徹底のためのPR、啓蒙文書等の作成・配布である。</p> <p>監事による毎年の監査に際して、業務監査の対象として、コンプライアンスの実施状況についても監査してもらっている。</p> <p>今後は、コンプライアンス相談窓口の設置が必要であると考えている</p> <p>また、評価結果は報告書に取りまとめ、平成25年度よりホームページにて公開している。</p>	3	コンプライアンス委員会を設置し安心できる管理システムが構築されていると感じる。
	9-43 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか					
	9-44 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか					
	9-45 自己点検・自己評価結果を公開しているか					
10 社会貢献	10-46 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	3	<p>本校には、滋慶学園グループの「4つの信頼」(①業界の信頼 ②高校の先生の信頼 ③学生・保護者の信頼 ④地域の信頼)というコンセプトがある。</p> <p>この「4つの信頼」の獲得を目指すことが社会貢献に繋がると考えている。 例えば、業界企業や団体、あるいは中学校・高等学校等の教育機関とタイアップして行う、出張授業支援やクラブ活動支援、また、スタッフが高校へ出向いて行う特別講義等では、「高等学校の先生の信頼」に繋がっている。</p> <p>滋慶学園グループが推進する「地球温暖化防止対策」運動で行っている、節電、冷房温度28度設定、階段利用(2アップ3ダウン)や、イベント等におけるゴミ削減、資源有効利用等々は、学生本人のみならず、来校された保護者の方々からも高い評価を頂戴し、「学生・保護者の信頼」に繋がっている。</p> <p>特別なことをするわけではなく、滋慶学園グループが掲げる「4つの信頼」の獲得を目指すことが、すなわち社会貢献を果たすことに繋がっていると考えている。</p>	<p>本校では、教職員及び学生たちが、常に社会貢献を意識した活動を行っている。 例えば、①骨髓移植推進キャンペーンミュージカル「明日への扉」②大阪府・市からの企業プロジェクト ③業界企業とタイアップして行う全国企業プロジェクト ④中学校の職業理解支援等々、年間を通じ、教職員や各コースの学生たちが、それぞれ特徴を活かし、幅広く、かつ意義のある活動を行っている。</p> <p>その活動が、「業界の信頼」、「地域の信頼」、「高校の先生の信頼」、「学生・保護者の信頼」という、滋慶学園グループの「4つの信頼」獲得に繋がりが、その結果が社会貢献を果たすことに繋がっている。 今後は、学校の施設や教育ノウハウ等を更に活かし、多様な社会貢献へ発展させていく考えである。</p> <p>創立記念日には全ての学生が、地域に感謝の気持ちを込めて、ゴミ拾い活動「クリーンデイ」を行っている。 また、地域のお祭りやイベント「西六夏祭り」などでの音響スタッフなどの支援を行っている。 大阪府立久米田高校とダンス部・和太鼓部への楽曲提供を行っている。 泉大津市には、シティプロモーションの援助を行っている。</p>	3	4つの信頼①学生・保護者②業界③高校④地域を得るために業界企業とタイアップをはじめ、クラブ活動支援、イベント、ゴミ削減などの活動は賞賛に値し、今後も進化させ継続することを望む。
	10-47 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか					